



東白川小だより

令和6年4月20日(土) No2

「来て来て!」「入れて!」

校長 桂川 辰也



校長室の窓から外遊びをしている児童の様子を眺めていました。4年のTさんが「来て来て!」と手招きしながら窓際に近づいてきました。ドッジボールと一緒にキャッチボールをしようと誘ってくれたのです。運動場に出て遊んでいると、「入れて!」と1年男児が声をかけてきました。三人で遊んでいると、今度は1年女児が「入れて!」と合流しました。「うまい!」「惜しい!」1年生の動作一つ一つに優しい声をかけたり、1年生が安心してキャッチできるボールを投げたりするTさんを見ていて、心が温かくなりました。その後、3年男児が複数人加わって、私自身とても楽しい休み時間を過ごすことができました。

「入れて!」と自分から飛び込んでいける人って素晴らしいなあと思います。でも『きっと受け入れてもらえる』という安心感がTさんに漂っていたから、1年生も声をかけやすかったのだと思います。その輪はどんどん広がり、最近は1年生から6年生まで、たくさんの子が一緒になって遊んでいます。私自身も、「5年生以下で6年生チームを負かして『ギャフン』と言わせること」が、最近の学校に来る楽しみの一つになっています。「来て来て!」と最初に誘ってくれたTさん、本当にありがとう。

大きな声が増えてきました

始業式で職員が歌った歌を、坂道登校時に子ども達と歌ってみました。私に続いて子どもたちが歌うのですが、本当に子ども達は面白いです。「大きなアイス食べましょう」「小さな声で歌おうよ」「大きな声では歌いません」など適当に歌詞を変えてついてきてくれます。私も真似して歌詞を変えてみると、子ども達は更に張り切って歌ってくれます。

また、入学して間もない1年生のNさん、Mさんが坂道で出会うと「おはようございます!」と私より先に大きな声で挨拶をしてくれます。バスの乗車時に、「さようなら」と山々に響くような大声と笑顔で挨拶してくれる上級生の姿もありました。

前号に、誰もが安心して表情豊かに大きな声が発せられる仲間関係、学校を目指します。「先ずは大きな声から!」と書かせていただきましたが、とても嬉しいスタートが切れています。

6年生が企画・運営してくれた『1年生となかよくなる会』の成果が、このように、日常生活のあらゆる場面に発揮されてきました。「6年生の皆さん、ありがとう!」